

求むInnovation Partners!!

イブニング サロンNEWS

2009 1/30 第12号
(年6回発行)

イブニングサロン公式サイト

<http://www.innovationpartners.jp/nonagase/evening.htm>

発行

イブニングサロンNEWS」を発行する会
事務局・東方通信社
TEL: 03-3518-8844

循環型社会、地域共生を 実現する環境ビジネス

1月30日(金)、第21回目の「新都心イブニングサロン」が開催される。今回のテーマは「環境」。大量生産、大量消費を重視した時代が限界に来てしまったのは、昨今の経済不況でも明らか。これからは、循環型の社会、地域との共生がますます重要になってくる。今回紹介する企業や研究は、そのモデルになっていくだろう。将来を見通したビジネスモデルにきつと驚くに違いない。

循環型社会を実現する リサイクルトレー!!

(株)ヨコタ東北

豆腐容器のトップメーカー(株)ヨコタ東北が取り組んでいる環境対策は、地域社会と共生する理想的なモデルとして各方面から注目を集めている。

同社の容器製品「リ・リパック」は使用後、汚れたフィルムをはがすことで洗浄しなくてもリサイクルできるのが特徴。阪神大震災のときに被災者たちが皿にラップを敷いて繰り返し食事をしていたことにヒントを得たという。毎日出るゴミの4割は食品トレーといわれており、リサイクル社会の実現にとって避けては通れない問題といえる。同社のパックは、回収後に粒状のペレットにし、再び容器として再生される。このとき製品の質を落とさずに再生できるというから技術の高さがうかがえる。また、回収した容器を選別したり、

ペレット化する作業を地域の社会福祉施設に委託し、障害者の雇用拡大にも貢献。同社ではこれを「新庄方式」と呼び、すでに地元のたんぼぼ作業場で、食品トレーの収集を行い別の施設でペレット製造を委託している。この事業は、平成18年度の循環型社会形成実証事業にも採択されさらなる拡大が期待されている。同社のリサイクル容器は、地元のスーパリーや各地の大学で普及が進んでおり、地元では回収率も5割近く上がってきているという。さらに同社の工場には、トレーの再生の様子がわかる展示コーナーが設置されており、環境教育にもひと役買っている。同社の柴田いずみ氏は「リサイクルは身近なところから始めることができるということを知らせてもらいたいと思っています。そのため、子どもにもわかるように工夫をしています」と話している。たしかに同社の社屋は工場という

よりメルヘンの世界だ。かわいくて巨大なウサギがお客を迎えてくれる。見学に来る子どもたちも大喜びだとか。みんなで支えあつて進んでいく、同社はまさに将来の企業モデルといえるだろう。



子どもたちも喜びながら環境を学べるヨコタ東北の工場

本社・〒996-0053
山形県新庄市大字福田字福田山71
1-1-39
TEL0236-26-3611
<http://www.yokota-co.co.jp/>

時代のニーズをつかみ 機密文書の処理で急成長

永田紙業(株)

古新聞・古雑誌・ダンボールなどの古紙1トを再生すると、樹齢20年程度の立木20本分が節約されるという。それだけ、古紙再生は、リサイクル社会にとって重要な事業といえる。しかし、古紙再生は薄利のため、業界規模は縮小し続けているのが現状だ。

が、この厳しい状況でも急成長しているのが永田紙業だ。同社は、昨今社会問題になっていく「情報漏洩」に目を付け、重要書類・機密書類の処理事業に乗り出したのである。

機密書類は、内容の重要性から処理を外部に委託しにくいものだが、同社は外部に漏洩させずに処理するシステムを構築し



急成長を遂げている永田紙業

てきた。まず、業界で初めてプライベートマークを取得。そして、JIS規格に準拠して定めた個人情報マネジメントシステムや改善プログラムを実施し、「機密文書処理のプロ」というブランド力を高めてきたのだ。おかげで依頼数は右肩上がり、売上げは二桁の伸びを見せているという。

加えて、処理速度の迅速さにも定評がある。同社の工場には連日、新聞・ダンボールなどの古紙から機密書類まで大量の古紙が持ち込まれるが、数台の大型シュレッダーが迅速に処理していく。その後、圧縮梱包し、国内製紙メーカーに出荷。これらの作業を短期間に処理してしまうのだ。おかげで、今では東北や関西からも依頼も増えているという。「環境問題」と「情報保護問題」といった時代のニーズをとらえたビジネスモデルが奏功したようだ。

本社：〒369-1110
埼玉県深谷市長在家198
TEL048-5086-2141
<http://www.nagata-shigyo.com>

開発優先の時代はすでに過去 環境問題は人類共通の課題

埼玉大学大学院理工学研究科 坂本和彦 教授

環境化学を専門にし、大気環境学会の会長も務める坂本教授は、人類が直面している環境問題について「エネルギーの大量消費によってもたらされた20世紀の大量生産・大量消費・大量廃棄は、地球温暖化、酸性雨、有害化学物質といった地球環境問題を顕在化させました。すでに人口が60億を超えている今では、大変憂慮すべき問題です」と話している。

昨年の洞爺湖サミットでは、温室効果ガス削減の長期目標をめぐり活発な議論が交わされた。これからは明確な削減目標を持つ経済活動を展開することがますます重要になってくる。今は、環境対策の重要な岐路に立っている。

坂本教授の研究成果の多くは、これからの環境社会にとって欠かせないものばかりだ。光化学スモッグや酸性雨の発現機構の解明、汚染制御手法の開発、光触媒等による空気浄化、石炭クリン燃料化、黄砂と硫酸化物の反応など。身近なものからスケールの大きなものまで、いずれも環境問題と密接にかかわっている。

さらに坂本教授は「大気汚染の問題は、学者だけでは解決できません。多くは産業、経済と直結しているので、経営者側からの考察も重要です。ともすれば大気汚染を取り上げることは産業の発展を阻害すると誤解されますが、この見方を根本的に是正することが大事です」と話している。つまりは、地球に住む全員が環境を意識しなければならぬ。こうした問題に敏感にならないければ解決しないということだ。教授の研究の重要性は増すばかりだ。

〒338-8570
埼玉県さいたま市桜区下大久保255
TEL048-0550-0510
<http://www.env.gse.saitama-u.ac.jp/labs/junkan/junkanmain.htm>

研究成果が注目されている坂本教授



山形大学地域共同研究センター 高橋政幸 氏

もがみのオリジナル食品を紹介する山形大学地域共同研究センターの高橋政幸氏。高橋氏は月刊「コロンブス」07年3月号に登場した際も、もがみの特産品について熱く語った(当時は、最上地域中小企業支援センターコーディネーター)。そのときのインタビュー記事を紹介したい。

私の故郷である最上地域(新庄市、最上郡・最上町、金山町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村)は、自然が豊富で、米や蕎麦などおいしい食材もいっぱいのもとも住みやすいところです。お土産には、ヤーコンの焼酎や漬物などがオススメです。最上町では、今から15年ほど前から町民の健康増進を目的にヤーコンの栽培が始まりました。60件軒ぐらいの農家がヤーコンを作っていましたが加工に取り組んでくれる業者がなかなかいないという相談を受け、新庄市の業者さんへ持っていったのです。

ただ、商品化には大きな問題がありました。というのは、ヤーコンはポリフェノールが原因で皮をむくとすぐに黒くなってしまいます。一般家庭では、酢水に入れてあくぬきをしています。しかし、量産する際は、時間やコストの面で難しいと思われました。

そこで、山形大学農学部の五十嵐喜治先生にヒントをもらい、これが非常にうまくいきました。その後、私は山形県企業振興公社から設備貸与の支援策を受けられるようにし、商品開発が始まったのです。おかげで最初の1年目でヤーコンの水煮、漬物などを商品化させることができました。販路は、業者が持っている既存ルートを活用しましたので、それほど苦労はしませんでした。

ただ特産品として扱っていくには単品だけでは弱いので、さらにヤーコンのお菓子、味噌漬などを次々に開発していきました。ちょうどその頃テレビで、ヤーコンにはポリフェノール、オリゴ糖、食物繊維が豊富に含まれており、“長寿のもと”だということが紹介され、よく売れました。

その後も、ヤーコンを使ったゼリー、マドレーヌ、バトンケーキ、ジュースなどを開発し、最後にできたのがヤーコン焼酎です。2500本を生産しましたが1ヶ月で完売するほど良く売れました。ヤル気になれば何だってできると思いましたね。



埼玉県中小企業振興公社

73年に埼玉県内の中小企業の振興を目指して設立。中小企業の振興から人材育成、商業振興、セミナーなど幅広い活動を展開している。無料の経営相談もあるので、積極的に利用してみたいか。詳細はサイトのカレンダーにて。

〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合2-3-2
新都心ビジネス交流プラザ3F
TEL:048-857-3901

耳寄り情報コーナー



<http://www.saitama-j.or.jp/>

野長瀬教授「モノづくり通信簿」に 富士部品工業(株)が登場

イブニングサロンの世話人をつとめる野長瀬裕二・山形大学教授が企業診断を行う「モノづくり通信簿」が月刊『コロンブス』で好評連載中。これは、モノづくりで定評のある企業の工場や現場取材し、「成長意欲」「独自性」「営業努力」「事業企画」「経営資源」「雇用創出」を採点。その上で、その企業の強み、逆境時の対処法なども聞き、総合的に企業を評価していくコーナー。この手法が読者に



「モノづくり」通信簿をつける野長瀬教授

好評で、「自社の改善点が見えた」「新しいビジネスヒントをつかんだ」といった声が編集部に届いている。

最新の月刊『コロンブス』1月号では、富士部品工業(群馬県太田市)の渡邊浩会長が登場。太田市といえば、かつて戦闘機を製造していた中島飛行機の工場が残るモノづくりの町。今も自動車や電機メーカーの工場が集積している。同社は80年代に富士重工のパートナーとして、この地で創業し短期間に事業基盤を固めてきた。その経営スタイルはまさに「コーデイネイト型」の企業である。

渡邊会長は「創業当時は、ポルトとナットの製造が95%を占めていたが、顧客のニーズに合わせてモノづくりを行っていくにつれて、その比率は5割程度に落ち着いた」と振り返る。現

在はボルトとナットだけでなく、プレス部品、精密切削部品、冷間圧造部品、rostワックス、バルブ部品など、さまざまな朱ル乃パーツを取り扱っている。ちなみに同社ではなんと1万種ものパーツを製造しているそうだが、今では日産ディーゼル、ダイハツ、アイシン、ボッシュなどとも取引を行っており、顧客数は150社を超えている。同社だが、これまでの道のりは決してラクではなかったという。



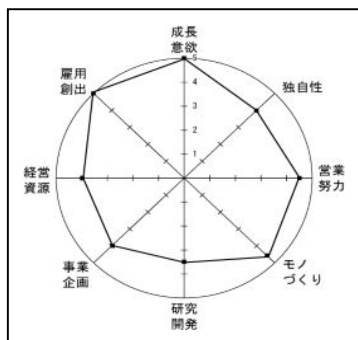
顧客ニーズに真摯に答えてきた渡邊会長

「自動車産業はコストダウンが定期的に求められる。これまで品質、コスト、納期と要求はどれも厳しいものでしたが、ムリな注文でも知恵を絞って乗り越えてきた」と話している。

今後「ウチもモノづくり通信簿をつけてほしい」という企業は、「コロンブス」編集部まで連絡を。

富士部品工業(株)
TEL0276-31-2311
http://www.fbk-fuji.co.jp

富士部品工業の「産業栽培度」



サロン公式サイトで「ニュース」公開中

第10回新都心イブニングサロンで創刊された「イブニングサロンニュース」



は、新都心イブニングサロン公式サイトおよび発行事務局の東方通信社サイトにてアップされています。第11号までアップしていますので、ご覧ください。

今後も引き続き、さまざまな角度からニュースを発信していきたいと思ひます。新商品や新技術の開発、ご意見・ご要望までお寄せください。

★イブニングサロン公式サイト
<http://www.innovationpartners.jp/nonagase/evening.htm>

★東方通信社サイト
<http://www.tohopress.com>
問合せ: TEL03-3518-8844

e-mail: ryot@tohopress.com

月刊『コロンブス』が元気企業を取材します!!

産業栽培誌・月刊『コロンブス』

(東方通信社発行)には、野長瀬裕二教授の連載コーナーのほか、地元の元



気企業を紹介するコーナーもあります。これまで、さいたま市産業創造財団の江田理事長(04年10月号)やNECパーソナルプロダクツの柴田執行役員(06年2月号)など、イブニングサロンの関係者・参加者たちの取材記事を多数掲載してきました。今後、取材を希望される方はご連絡ください。

問合せ TEL: 03-3518-8844

★イブニングサロンの主な世話人

江田元之(財)さいたま市産業創造財団・理事長/星野弘志 元埼玉県労働商工部新産業育成課・課長/村重嘉文(株)イーシティ埼玉・取締役会長/野長瀬裕二(学)山形大学大学院理工学研究科・教授/浜中真人・さいたま商工会議所産業企画部・次長

★主な企画運営委員

山田頼二(財)浜松地域テクノポリス推進機構・事業推進部長/江原秀敏 コラポ産学官・常任理事・事務局長/古川猛 月刊『コロンブス』編集長(東方通信社)/根津紀久雄 NPO法人北関東産官学研究会・理事長/柴田孝・米沢BNO副代表